

# 夏休みと

初めてのホームステイ  
小五  
小林  
直生

八口一

小五  
小林 直生

お礼の気持ちをこめて、私は折り紙を折つてプレゼントしました。ジェーンさんが、「ありがとうございます。これは大事に箱の中に入れておくからね。」と言つてくれてほつとしました。今回のホームステイでは、イギリスのいろいろな生活を体験できて楽しかつたです。次回は、もつと英語でコミュニケーションをとれるようにしたいです。

「うーん、ちょっと違うんだよね。」  
曜日を見て、はつとした。木曜日だつたからだ。そして思わず笑ってしまった。四月に立教英國に入学してまだ三ヶ月しか経っていないのに、木曜日のデザートの習慣はしっかりと体に染み付いていた。

第二七七号 二〇一七年十二月十二日  
發行者 立教英國學院

RIKKYO SCHOOL IN ENGLAND  
GUILDFORD ROAD, RUDGWICK RH12 3BE  
<http://www.rikkyo.co.uk>

次の日からいろいろ活動をしました。動物園やボウリング、セブンシースターズにもまた行くことが出来ました。家では、パズルをしたり、フェアリーケーキやバタフライケーキを教えてもらつたりしました。英語でコミュニケーションをとるために知っている言葉を使って伝えようとがんばりました。少しでも私の言つたことが伝わった時は喜びで心があたたかくなりました。ステイ中に、マークさんのお誕生日会がありました。たくさんの方が来ていました。イギリスの生活習慣を知ることができたし、本当に家族の一員になつたよううれしかつたです。

次は何と話そうか必死に考えながらホストファミリーと挨拶をかわしていました。今回のホームステイは私にとつて初めてでした。ホームステイの手引きでいろいろ注意することなどを見ていたけれど、正直、不安でしかたがなかつたです。私があいさつをしたら、ホストファミリーは、につこり笑つてあいさつを返してくれたので、私の心配事はふきとびました。ステイ先は、とても大きな家でした。マークさんとジエーンさんとデナーリーという大きな犬が住んでいました。

中三 小林『日本に帰国してまだ一週間も経たない日、「アップルクランブル」が無性になくなつた。』  
「アップルクランブルが食べたい。」

A photograph of two young men in an attic room. The man on the left stands in the center, wearing a dark blue long-sleeved sweater over a white collared shirt and dark trousers. The man on the right is seated on a bed in the background, wearing a red long-sleeved shirt with a graphic on the front and brown trousers. The room has a slanted ceiling, a window with yellow curtains, and a wooden dresser. A stack of folded laundry is on the floor to the left.

生徒数が増加し、9月、*East House*と*West House*が生徒寮として、再オープンしました。

がとても充実している。  
夏休みが始まつたばかりなのにもうイギリスが恋しいなんて、学校と学校のみんなのおかげだと思う。心から感謝して二学期からも頑張りたい。そして、木曜日が樂しみだ。

## 一 目 次 一

ページ	ページ
夏休みと二学期始業 1	OPEN DAY 6~7
2017 年度第 2 学期 行事 2	Cambridge UK-JAPAN Young Scientist Workshop 8
アウティング 3	UCL-JAPAN Youth Challenge 2017 9
英国の季節と行事 4	創立 45 周年 写真で見る立教英国学院のあゆみ 中編 10~11
EC CREDIT HOUSE 5	第 5 回 チャプレンより 12

# 2017 年度第 2 学期 行事

## September

10 日 2 学期始業式

22 日 個人写真撮影

23 日 バドミントン部 Sussex Championships 戰

24 日 第 37 回因数分解コンクール

26 日 全校写真撮影

26 日 在英国日本国大使館鶴岡特命全権大使來校、講演

27 日 サッカー部 Hurtwood 戰



## October

4 日 アウティング

5 日 男子バスケットボール部 Lancing College 戰

7 日 英語検定一次試験 (準一級以上)

8 日 英語検定一次試験 (二級以下)

11 日 テニス部 Kings Edward 戰

12 日 男子バスケットボール部 Worth School 戰

13~21 日 オープンデイ準備

22 日 2017 年度オープンデイ

29 日 軽音楽部コンサート

## November



1 日 男子テニス部 St. Peters 戰、女子テニス部 King Edward 戰

4 日 生徒会主催 Guildford ショッピング

5 日 英語検定二次試験

11 日 創立 45 周年記念コンサート

7 日 男子バスケットボール部 Bede's 戰

14 日 バレーボール部 Epsom College 戰  
15 日 バレーボール部 Michael Hall 戰

8 日 テニス部 Vidal School 戰

15 日 男子バスケットボール部 Michael Hall 戰

8 日 バレーボール部 Epsom College 戰

9 日 男子バスケットボール部 Ardingly 戰

22~27 日 期末考査

28~29 日 期末テスト返却

30 日 クリスマスコンサート & H3 お別れ会



## December

1 日 キャロリング

1 日 クリスマス礼拝

2 日 児童生徒の帰宅

4~8 日 中学部 3 年生特別補習

9~10 日 中学部・高等部入学試験 A 日程



# アウティング

オックスフォードで一日を



高二一

松永  
朋子

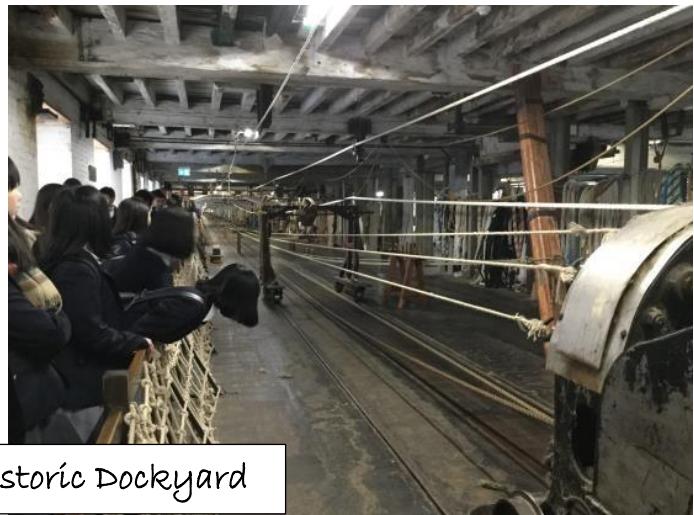
H2 Oxford



窓の外の景色を眺めていた。古いけれどどことなく威厳のある街並み。いや、古いからこそ、か。これがあのテレビの画面越しでしか見たことのなかつたオックスフォード。「年前フイリピンのソフトアーティストでゴロゴロしていた私には考えられないところまで来てしまつたな、と改めてイギリスに住んでいることに実感がわいた。

ゆつたりとした雰囲気をもつケンブリッジとは対照的に、大学と住居とお店がごちゃまぜになつて、ぎゅうぎゅうに詰まつてゐる感

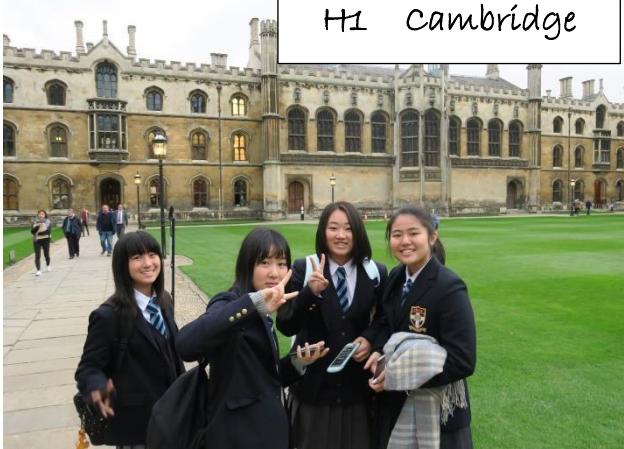
P5E6 Stonehenge



M1-M3 Leeds Castle & Chatham Historic Dockyard

H3 London

H1 Cambridge



じ。それでいてしつかりと調和がとれている。じつくりと街を観察した後は、イギリス最古のコーヒーショップへと足を運んだ。めつたにない機会だし、と少し背伸びをしてモカと蜂蜜バニラアイスクリームイチゴ添えをオーダーした。無論、どちらも絶品だった。

しかし今回のアウティングのハイライトは、やはり若い男性ガイドさんによるハリーポッターツアーであろう。実際映画に使われたロケ地や、モデルとなつたオックスフォードのダイニングホールをこの目で見ることができた。特にダイニングホールは圧巻だった。ちょうど夕食の準備が行われていて、一直線にきれいにキャンドルが並べられていたのがとても印象的だった。今でもその幻想的な光景が目に焼きついていて離れない。

オックスフォードで見るもの全てが新鮮だった。また機会があればぜひこの歴史ある街を訪れたい。

# 英国の季節と行事

## Guy Fawkes Bonfire

11月5日、イギリスではGuy Fawkes Dayを迎えます。ガイ・フォークスとは、今から約500年前に国会議事堂の地下で爆破未遂の犯人として逮捕された人物。当時、イギリス国内では、プロテスタンントの国王がカトリックの人々を弾圧して深刻な宗教対立の状態にあり、この事件を一概に評価できない複雑な事情がありました。国会議事堂爆破という大事件が未遂におわったことを記念して、この日は焚き火をたいてお祭りをするようになりました。一般に、11月第一週の日曜日に行われます。



今年は小中学生の一部が、近くのお祭りに外出しました。村はずれで大人は松明を持って、子供は光るおもちゃの棒を掲げて、伝統にしたがって行列を組んで焚き火場へ。松明の灯をともして、焚き火が燃え上がる様は壮観。野山が枯れ草色に染まった初冬の頃ですから、息が白く、焚き火のあたたかさが体に沁みとおる夜でした。



## Christmas Shoebox Appeal



学校で Christmas Shoebox Appealへの参加が始まったのは、2015年のこと。小学生の合同社会の授業で、地域の社会活動の一つとして取り組みました。Christmas Shoebox Appealは、世界中がクリスマスをお祝いし、幸せなひとときを過ごす一日に、貧しい人々へ贈り物をおくって、彼らにも心が温まる日を過ごしてもらおうというボランティア活動です。地元 Cranleigh の団体の取り組みでは、ルーマニアの Hunedara に住む貧しい人々へ毎年送っています。Samaritan Purse などのキリスト教団体が大掛かりに取り組んでいます。

小6以来毎年取り組んできた中2は今年もプレゼントボックスを作りました。昨年・今年と、小学生たちもそれぞれにプレゼントを作っています。

写真などから贈る相手の生活の様子を想像し、どんなものを送るといいか、頭を絞って考えます。男の子に贈るのか、女の子に贈るのか、何歳ぐらいの子供へかも考えます。自分たちの生活を振り返りながら、異なる環境の人のことをおしゃはかり、心をこめて品物を選びます。予算は10~14ポンド。限られた予算の中で、できるだけ品数を多く、上手に品物を選ぶのも勉強です。靴の空き箱を活用して、タグや値札を外してきれいに品を詰め、クリスマスカードも同封して、包装紙で包んだら出来上がり。「いいな、こんなプレゼント、自分もほしい」…毎年誰かが言います。受け取る子供たちが笑顔のクリスマスをすごせますように。Happy Christmas!



## Brighton House



## Arundel House



Starting in September 2017, the English Communication department introduced a House system for all students. The inspiration for our Houses came from the Harry Potter books, and, just as in these stories, we have 4 Houses each with its own colour and animal. Our Houses are named after important English towns in Sussex: Brighton, Arundel, Guildford and Chichester. Each student in the school has been allocated to a House; this took place in a special ceremony and, although we do not have a Sorting Hat, we do have a Sorting Chair which the students sat on while the name of their House magically appeared on a screen behind them! Students can win points for their House by

achieving certain marks in their homework, exams and spelling tests. It is important to say that points are also given for effort, as the EC teachers recognise that sometimes students try very hard, but don't always get high grades. Losing points is also a possibility, for example being late to class or not handing in homework will mean points are taken away from a House.

Our first winner of the House Point system was Brighton House. As their reward, they received a special lunch in one of the classrooms, which had been turned into a Christmas Grotto especially for the occasion. The top 3 point winners also received prizes.

## EC CREDIT HOUSE

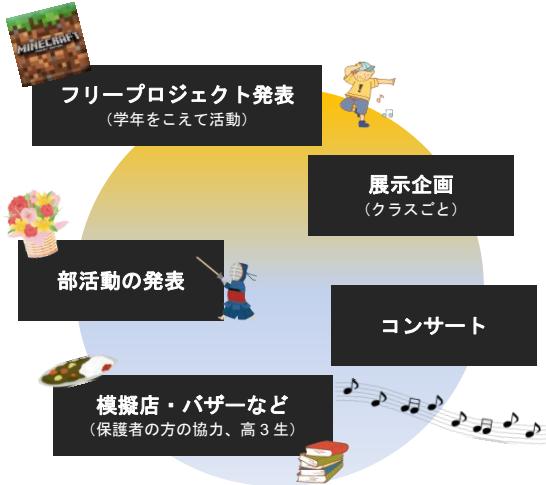


## Guildford House



## Chichester House

終わってみればあつという間、しかし、だからこそそのよさにあふれたオープンディーでした。お客様と児童生徒たち、保護者の皆様、誰もが笑顔の一日となりました。



十月二十二日（日）、年に一度のオープンディーが行われました。オープンディーとは、文字通り、学校を開く一日という意味です。そもそもはイギリスの学校での催しで、入学を考えている方のために、学校を一日公開し、授業、活動、児童生徒の様子を見てもらうことを目的とするものです。

立教英國学院では、十時から十六時まで学校を開放し、日本の学校行事を取り入れた『文化祭』として行っており、「展示や発表だけでなく、立教生の姿を見てもらうことが大切」と児童生徒に教えていました。毎年、地元の皆さんを含む多くのお客様が訪れ、立教英國学院や日本のことについてももう重要な機会となっています。

今年のオープンディーでは、「Stimulate Your Imagination」のスローガンに沿つて各クラスの展示企画が行われました。

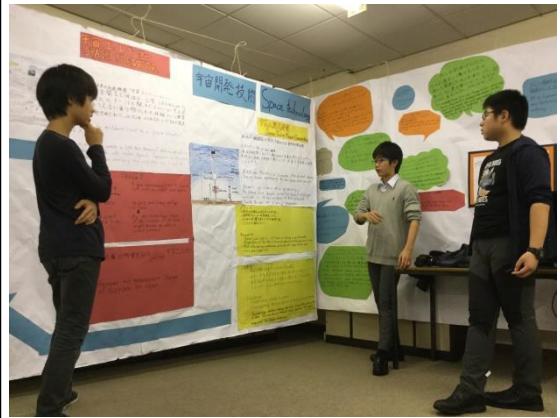
## クラス企画

オープンディーのメインの催しとなるのは各クラスの企画です。展示企画が主ですが、教室全体を使ってクイズに取り組んだり、実験を繰り返して電気や機械で動くものを作るのが主となる催しも過去にありました。今年は一般的な展示でしたが、小学生では体験ができたり、中学生では生徒工夫の電車の改札や当日の英語発表もあり、工夫がこらされていました。どのクラスも特徴ある展示に仕上がり、地元のイギリスの方々に、とても面白かったよ、と褒められている姿も見られました。

### （今年のクラス企画）

小学生「ハリーポッターと忍者」  
中学1年生「電車」  
中学2年生「未来技術」  
中学3年生「マリオ」

高校1年生「日本の昔話」「ジブリ」  
高校2年生「刑務所」「日本の高校生」



# DAY

Sunday, 22.10.2017



## フリープロジェクト企画

フリープロジェクト企画は、クラス企画に対し、学年の枠をこえて、テーマに興味を感じて児童生徒たちが集まり、ひとつの企画を仕上げる試みです。部活動の発表もこの中で行われます。

茶道・剣道部による発表  
演劇部による劇  
フラワー・アレンジメント部による小物販売  
ダンスを中心とするパフォーマンス  
ルービックキューブ  
路上ライブ  
マインクラフトの実演・展示  
EDM  
チャリティー企画

昨年より新しい企画が増え、中学生が中心となって立ち上げた企画もあります。当日は見て頂くだけでなく、お客様を巻き込んだ実演など、楽しみが盛りだくさんでした。

## 模擬店・バザーなど

子供たちにとっての楽しみは模擬店です。英国の寮生活では珍しい食べものや催しを楽しめる日。そして英国の方々にも、日本文化を楽しんで頂けます。

模擬店では食事として、カレーライスやケーキ、焼き鳥などが出店されています。チーズケーキは高3生が作り、毎年人気を呼んでいます。保護者・企業の方などの協力で和菓子、菓子パンの販売があるほか、古本販売、バザー、くじ引きといった楽しみもあります。

これらの当日販売は、高3生と当日オープンディーに来て下さる保護者の方々の協力によって成り立っています。受験生としての一年を過ごす高3にとって、ほっと一息をつく特別な一日ともなります。





僕は入学してから二回目のオープンデイを経験した。今年の中二年のテーマは「常識をかえるテクノロジー」だった。僕は正直、今年の中二のテーマには反対だったが、作業をしているうちに楽しくなっていた。中二是、A、B、Cの班に分かれて、僕はC班だった。C班は、未来技術を紹介する班だった。僕たちは部屋の中にドアを作る予定だった。他の二人と一緒に必死に作つた。四日かけて作つたドアはとても美しく見えた。文章を作ることはとても大変だった。その後も書いた画用紙をはりつける作業は大変だった。

オープンデイ当日、僕達はドキドキしていた。自分達のプレゼンテー

なくとも内容をどれだけ詳しく、面白く分かりやすく伝えられるかに拘るのかもしれないななどと思つた。夜に後夜祭が始まった。とても盛り上がり上がつていた。ダンスを見て、いる時、すごくかっこいいなと思い、自分もダンスを練習したくなつて、きた。僕は毎回オープンデイで後夜祭を楽しみにしているので、始まる前はとてもドキドキしていた。映画などよりも迫力があるからだ。この日のために必死で練習してきた先輩方のダンスは素晴らしかつた。

来年も今年のような楽しいオープンデイにしたいと思つて、いる。

「ノロジー」を見終わった先輩達は  
「文字が多くて分かりやすかった。  
「内容が深くて面白かった。」と言つ  
てくれた。僕は模型があつた方が絶  
対に面白く、と思つて、今、其を望んで

シヨンがあつたので、僕はそのことによつて少し緊張していた。来る人はみな「すばらしい」と言つてくれた。とてもうれしかつた。そして午後一時にプレゼンテーションが始まつた。僕は「セグウェイ」について、英語と日本語でくわしく説明した。お客様の前で上手に説明しきつた時は、とても気持ちが良かつた。練習しておいて良かつたなど実感した。また僕はフリープロジェクトにも入つていて、EDM企画だつた。EDMとは、エレクトリックダンスミュージックの略だ。僕はEDMが元から好きだつたので、ターンテーブルを扱うのが楽しかつた。あまりうまく演奏できなかつたが、楽しむことができた。フリー プロジェクトは本当に楽しめる良い企画だなと思つた。

# OPEN

今回、私は色々な人に気を遣わせてしまつたなと反省しています。自分の気分の具合で周囲の人を振り回してしまいました。まだまだと、本当にまだまだなのだと痛感しました。自分も辛くて大変な事を沢山抱えているはずなのに、周囲を気遣い励ましの言葉をかける同学年の人を見て本当に素敵だなと思いました。見習わなければとも思いました。どうしたらあんなになれるのか今の私は到底追いつけないと思いますが、出来るようになりますが、

しかし、そこまで大事にならずに無事済んで、ある意味拍子抜けしました。さすがに和気藹々という訳にはいかず、ピリピリとした空気ではありましたが、「無事」に終えることが出来たのは、それぞれの人の我慢や折り合いや引き際の見極めがあったからこそだと思います。

せられました。私はフリー・プロジェクトに入っていた訳ではないのですが、チャリティー企画のお手伝いをさせてもらいました。教室棟の入り口で様々な物を売っていたのですが、場所のせいいか多くの人から色々な質問を受けました。かろうじて質問の内容を理解することは出来るのですが、それに対して英語できちんと答えることがほとんど出来ませんでした。せつかくイギリスにある学校にいるのに、このままでは話せるようにならないまま卒業することになりそうで、焦りを覚えています。



また自分の英語力の無さも痛感さ

オープニングを終えて  
高一一二 村山 みせり  
オープニングを終えてまず思った  
ことは「やっと終わった、意外とア  
リかも」でした。

夏休みに入つてすぐの七月十二日、日本より東北地方の高校生（宮城県立古川黎明高校・福島県立磐城高校・福島県立福島高校）と立教池袋高校からの生徒たちを迎へて、2017 Cambridge UK-Japan Young Scientist Workshop がスタートしました。

七月十二日から十六日までは立教英國学院をホスト校として、セブンシスターズ、ギルフォード、ロンドンなどに観光に出かけました。セブンシスターズでは地層について学び、海辺でピクニックをしました。ロンドンではロイヤルソサエティ（王立協会）や植物や生物の分類をしたカール・フォン・リンネのリンネ学会を訪問しました。理系の生徒たちにとっては貴重な学びの機会となりました。

十六日の午後からは会場をケンブリッジに移し、イギリスの高校生と合流して Young Scientist Workshop が本格的にスタートしました。生徒たちは4つの研究グループ、2つのディスカッショングループ、もしくは Science Communication を目的としたラジオ番組を制作するグループのいずれかに分かれ、1週間の密度の濃い学びの時を過ごしました。7つのグループは次の通りです。

- ① 化学部：虹の研究
- ② 遺伝子工学部：ショウジョウバエの研究
- ③ 工学部：ジェットエンジンの研究
- ④ 地球温暖化やエネルギー問題、健康について考えるディスカッショングループ
- ⑤ 放射能問題と環境について考えるディスカッショングループ
- ⑥ アースサイエンス学部：化石や岩から気候変動をたどる研究グループ
- ⑦ サイエンスをわかりやすく伝える方法を考えるラジオ制作グループ

ケンブリッジという歴史ある、かつ最先端の研究を行つてゐる大学で学べたことは、参加した生徒ひとりひとりにとって本当に貴重な学びの機会であり、特別な時間だったことだと思います。

今回の体験が、夢を大きく育み、世界に羽ばたく第一歩となればと思います。

に戸惑いのあつた生徒たちも、この日は堂々と発表していました。プレゼンテーションに続いては、Cambridge Clare College での盛大なディナーパーティーが行われました。この場で一人一人が名前を呼ばれ、「ワークショップの修了証」を手にしました。



ワークショップ最終日の二十一日には、1週間の研究の成果を共有する4時間に渡るプレゼンテーションが行われました。基本は英語、時折日本語も交えながらバリエーションでの研究発表の場となりました。最初は英語でのコミュニケーションフレンドシップを得ることもできました。

12~22.07.2017



「質問をしろよ。」

高二十二

齋藤 逸成

おそらく、このケンブリッジのワークショップで一番聞かされた言葉だろう。僕は普段、人の話を聞き、質問をするタイプではない。きっとどこかで、いや意識して「誰かがやつてくれる。」と、人まかせにしていただろう。もちろん今もそのつもりだった。

だが、そんな簡単に事は進まなかつた。最初にホールに集まつたときに、主催者や関係者などの人のお話があつた。その後には、お話の長さぐらいの質問の時間が設けられた。あげくの果てには、「日本人が質問するまで終わらない。」と、言ひ出された。その時は、違う人が質問をしてくれた。しかし、僕も流石に「いつか僕に回つてくるので、次は質問を考えておこう。」と、感じていた。それは、思つていた以上に難しいものだつた。普段、そういうことをやらない僕に対して、自分の難問だつた。質問をするか、しないかは関係なく一つ質問を作る。これを繰り返した。それからは、何回か名指し



今年もUCLをメイン会場とした日英高校生のためのサマープログラムが開催されました。このプログラムは、今から約百五十年前のペリー来航のち、長州藩と薩摩藩から英国へひそかにわたった人々が、University College London (UCL)で学び、近代日本の礎を築く人材として活躍したことを発端としています。四年前の二〇一三年、ペリーの来航と日本の開国から百五十周年にあたり、彼らの偉業を祝福する様々な催しが行われました。その集大成として、将来グローバルに活躍する人材を育てるため、日英の優秀な高校生を集めて、主な会場はUCL、そしてケンブリッジ大学でサマープログラムを開催しており、今年は第三回目となりました。本校からは高校二年生四名が参加しました。



開催期間は毎年十日間ですが、最初の一、二日はIcebreakingと呼ばれる、様々な学校から来ている参加高校生達が互いを知り、共に過ごす距離を築けるよう、アクティビティをするところから始まります。また街中をまわって、イギリスを学びます。滞在は大学寮を利用しておらず、私達と同じ勉強に悩む高校生だった人物

経済学など内容は多岐にわたりました。特筆すべきは、ジョン・ガーデン博士のレクチャーです。博士は二〇一二年にノーベル生理学・医学賞を受賞した科学者で、日本の山中伸弥教授と共同受賞しています。非常に高度なものであります。豊富な写真と図をもとに、高校生の知識にある発生の基礎から分かりやすく進められました。過去に業績を上げ、それが実用化されており、さらに現在も精力的に活動する研究者達から耳にする話は、実に生き生きとしていて、エネルギーがあふれています。何よりも、偉大な研究を成し遂げたゆえの凄さが際立つ以上に、



## UCL-JAPAN Youth Challenge 2017

21~30.07.2017



が、前に進む努力を続け、今この研究があるのだということを伝えてもらえたことが幸でした。レクチャーを通じて様々な世界の扉を具体的に提示されるとともに、これから進んでゆく大きなパワーをもったような気持ちになりました。プログラムのメインは、Grand Challengeと呼ばれる講義・ディスカッション・発表・シンポジウムへの参加と発表がセットになつていて取り組みです。今年のテーマは『Entrepreneurship (起業)』。社会事業についての講義を受け、UCLで学ぶ日本人学生の実際の取り組みも提示されました。社会問題を提起し、話し合い、それを大衆の一人としてどのように社会のために取り組んでいくかの視点で、ディスカッションが繰り返されました。実際に、どのような会社を興すかも話し合います。もちろんすべて英語です。といっても、すべてなめらかに進むわけではありません。ファシリテーターの大学院生らの助けを得て、理解しにくいものを知ろうとする努力、英語でうまく表現したり伝えたりできないもどか

しさを乗り越えて行かれています。UCLでまとめた成果は、二日後に公開シンポジウムで発表の機会が与えられました。シンポジウムにはレセプション(パーティー)も含まれていて、プログラムを通じて、公的な場での振る舞い方、社交、そして様々な人と知り合う場も体験できます。実際に名刺を交換し(参加学生は持っていないので貰うだけですが)、この人脈が生きる可能性もある体験です。学生たちが得たものは何でしょう。最先端の研究? 英語力の向上? 海外経験? や、やろうと思えばなんだってできます。英語を通じて考えたり表現したりすることも、海外の人々と友達になることも、実は、彼らが得た実感は、こんなシンプルなものなのかもしれません。それが彼らにとって、これから多くの扉を開く鍵になることでしょう。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。



# 創立四十五周年

写真で見る

二〇一七年の今年、立教英國学院は、創立四十五周年を迎えるました。一九七二年に海外の日本人学校として開校した本校は、たくさんの方に支えられて今日の日を迎えてます。十一月十一日には創立四十五周年を祝う、記念コンサートを行いました。

四十五年の間に少しずつ変化が訪れます。ここでは、全三回にわたって、二〇〇六年に当時の中学部一年生がオーブンデイで行つた展示企画の資料を基にしながら、立教英國学院の四十五年間を写真で振り返つてみようと思います。

## 立教英國学院のあゆみ



1980年代中頃の立教英國学院。



新館の3階にあったチャペル。この後、完成した教室棟に、新しいチャペル（のち31番教室、現在は剣道場）として移りました。



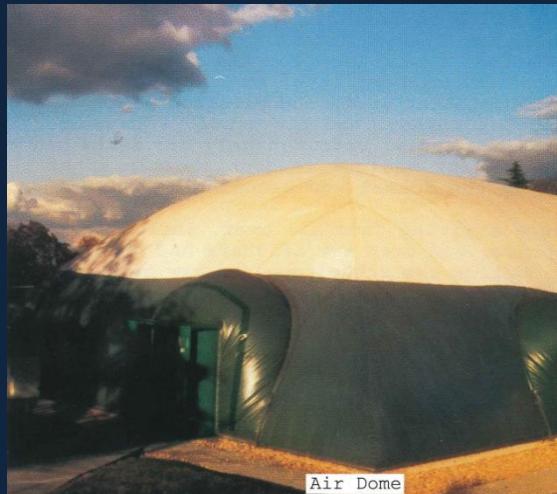
1986年、オーブンデイで高等部1年生が製作した、学校のジオラマです。素晴らしい完成度！

中編

※全三編の予定です



1980年代後半ごろ。手前のプレハブ棟はこの頃は教員室です。



1986年、スポーツをするために作られたエアドーム。



建設中の体育館。新教室棟と共に1993年落成。



1987年、食堂の傍に更に2つのプレハブ校舎が増設されました。  
1992年の写真で、1986年完成の教室棟に隣接する新教室棟を建設していた頃です。

### 1日のスケジュール

7:00	起床 (以下制服)
7:40	テニスコート集合
7:50	体操
8:00	朝食
8:30	礼拝
9:00	授業開始(45分間・二時間授業)
10:35	TEA TIME
10:50	授業(45分間・二時間授業)
12:25	
12:30	昼食
1:30	午後の授業開始(45分間・二時間授業)
3:05	TEA TIME
3:20	七時限目授業開始
4:05	七時限目終了 (以下自由服)
4:30	八時限目授業
5:30	
6:00	夕食
7:00	九時限目授業 (小学生は日記・自習)
8:00	TEA TIME
8:30	自習
9:15	小学生就寝準備
9:30	小学生就寝
9:45	中学生就寝準備
10:00	中学生就寝
	以後、中3、高1、自習 (12:00まで)

### 学院の一日

1987年

(月曜日～金曜日)

7:00	起床 (以下制服)
7:30	テニスコート集合・体操
7:50	朝食
8:25	礼拝
9:00	午前授業開始
10:40	TEA BREAK
10:55	授業
12:35	午前授業終了
12:40	昼食
1:30	午後授業開始
3:10	TEA BREAK
3:25	授業
5:05	自由時間 (以後自由服)
6:00	夕食
7:00	9時限目授業 (小学生は日記・自習)
8:00	TEA BREAK
8:30	自習
9:15	小学生就寝準備
9:30	小学生就寝
9:45	中学生就寝準備
10:00	中学生就寝
	以後 中3・高校生は自習

### 学校の1日を今昔比較!

#### 現在の1日のスケジュール

2017年

7:00	起床 (以下制服)
7:20	中庭集合、体操、朝食
8:10	礼拝
8:45	授業開始 (50分間・二時間授業)
10:35	TEA BREAK
10:50	授業開始 (50分間・二時間授業)
12:50	昼食
13:55	午後の授業 (50分間・二時間授業)
15:45	午後の授業終了 (以後自由服) 放課後、TEA BREAK
18:00	夕食
19:00	ホームルーム
19:30	自習時間 高校生の一部は授業
20:20	TEA BREAK
20:40	自習時間
21:30	小学生就寝
22:00	中学生就寝
23:00	中3、高1～2就寝
24:00	高3就寝

※週に何度か希望制で就寝延長し自習できる。

## チャプレンより

第5回



與賀田チャプレンは立教英國学院の学校付き牧師さまです。礼拝や聖書の授業ではさまであります。

しかし何故、クリスマスにはおめでとうと言ふのでしょうか。

確かに私達は誰かの誕生日を祝います。あの小さかつた子が成長した時。人生の半ばに差し掛かる年齢になつた。その辛苦を思う時。人生の黄昏に立つその人の存在が尊く感じる時。だから、おめでとう、なのです。

その意味で誕生日は、その人の今まで歩んだ人生に対して「おめでとう」というものであります。そこには、その人生に関わったこと、その生涯から何か伝えてもらったことに対する「ありがとうございます」という感謝の意味が込められているのです。

その人に感謝を伝える背景には、その人の関わりの中で自分がしてしまつた過ち、悔いが残ること、「ごめんなさい」という思いがあることでしょう。このように、誕生日の「おめでとう」には「ありがとうございます」と「ごめんなさい」が隠されているのです。キリスト教風に言い換えますならば、感謝と悔い改めが秘められているのです。

また、私達はもう一つの誕生日おめでとうの意味を知っています。赤ちゃんが無事産まれ、その命を祝う時です。赤ちゃんを待ち望む人々は、その子と幸せに過ごしたいと思うことでしょう。きっと人間と人間ですから、喧嘩をしたり、誤解をしたり、傷つけ合つたりすることでしょう。ですから誕生への「おめでとう」とは、これからも「ありがとうございます」と

「ごめんなさい」を繰返すことでしょうが、あなたのことを愛し続けたい、という思いの現われなのです。それは自分が愛されたことがあるから、今度は愛する側に立ちたい、という表明であります。

このように、誕生日おめでとうの意味はわかれました。では、主イエスの誕生と私達の人生、それはいつたいどんな関わりがあるのでしょうか。



本館玄関に飾られたクリスマス・リース

字架にかけられたのです。主イエスのことを慕っていた人々は皆、裏切ったのです。弟子たちは皆、十字架の時には、怖くなつてその場から逃げ去り見捨てたのです。

その時の弟子達は、まさに「悔いが残る」状態です。何故ならば、「ごめんなさい」と言ふうとしても、それを言う相手である主イエスは死んでいるのですから。ですが、主イエスは復活されました。そして、弟子達が「ごめんなさい」と言い出せない所へ現われ、赦しの言葉をかけられたのです。その時の弟子達の、感謝と賛美、悔い改めの気持ちは、どのようなものだつたのでしょうか。その後の弟子達の生涯を私達は「教会」という形で知っています。愛されたから愛したい、という思いが二千年間連続していることを、「教会」が証しているのです。

私は先ほど、普通人間は「死んだ人間の誕生日は祝わない」ということに触れました。ですからクリスマスは、神が生きておられる私達のすぐ近くにおられることがの裏返しです。クリスマスは、これからお生まれになる赤ちゃん主イエスの誕生を祝う日です。人生の旅路において、感謝と賛美、悔い改めがあつたことを、愛されたことを思い出すことを求められる日です。と、同時に、赤ちゃんの誕生日を待ち望むように、これから愛そうとすることを求められる日です。

どうかこれから迎えますクリスマスの日に、あなたが愛されたことを思い出し、また愛していくことを思い出すことができますように。ありがとうございます、「ごめんなさい、全てをこめて、神様と隣り人とおめでとう、と言ふことができますように。

皆様、クリスマスおめでとうございます。

## 2018年 同窓会日程についてのお知らせ

今年は3月第3日曜日18日の開催です。

同窓生の皆様、毎年3月の最終日曜日に立教大学第1食堂で行っておりました同窓会ですが、2018年は会場の都合で3月18日の開催となります。場所は立教大学第1食堂、時間は13:00~15:00の予定です。

例年より1週間早くなりますが、どうぞご予定に入れていただきたくお願ひ申し上げます。正式なご案内は来年1月に送らせていただきます。

立教英國学院